

東北工業大学

教職研究紀要

第9号

2024年3月

東北工業大学総合教育センター（教職分野）

目 次

「教職課程のためのポートフォリオ」と「履修カルテ」の運用・活用方法
(教職 FSD 研修会 (令和 6 年 2 月 13 日実施) 報告)

..... 中島 夏子 ... 1

執筆者紹介..... 8

総合教育センター (教職分野) 2023 年度活動実績 9

教員養成審議委員会 2023 年度活動実績 22

東北工業大学教職研究紀要刊行規程..... 24

「教職課程のためのポートフォリオ」と「履修カルテ」の 運用・活用方法¹

Implementing Portfolios in Teacher Training Program
: A Case of Tohoku Institute of Technology

中島 夏子

NAKAJIMA Natsuko

1. 文部科学省による「履修カルテ」の要請

「履修カルテ」は、教職課程を履修する学生を対象として、彼らの教職関連科目の履修状況や必要な資質能力に関する評価を入学の段階から継続的に把握し、それを踏まえた指導を行うためのツールである。そして、4年次後期に開講される「教職実践演習」において、それを用いて総括することとされている。その記載事項は、教職関連科目の履修状況、教職に関する学外学習、ボランティア経験等の状況、教員に必要な資質能力についての自己評価と教職を目指す上での課題と考えている事項である。教職関連科目の履修状況は大学又は学生が記入し、必要な資質能力に関する評価は教職科目の担当教員及び学生が記入することとされており、これをどのように取り扱うかは大学の判断となっている。

平成22年度入学生より運用が開始され、平成25年度から新設された「教職実践演習」の中で活用されている。その際の管理・運用組織は、教職課程の運営や教職指導を全学的に行う「教員養成カリキュラム委員会」（仮称）であり、教職に関する科目の担当教員と教科に関する科目の担当教員が協力することとされている²。

近年では、教職課程の自己点検・評価の際の「学修成果の把握・可視化」のために、教員の養成の目標の達成状況（学修成果）を明らかにするための情報の設定及び達成状況が求められており、そのために「履修カルテ」が活用することが求められている³。

¹ 本稿は教職FSD研修会（令和6年2月13日実施）報告に基づく。

² 文部科学省、2023、『教職課程認定の手引き（令和7年度開設用）』，pp.196-200.

³ 文部科学省 教職課程の質保証のためのガイドライン検討会議、2021、『教職課程の自己点検・評価及び全学的に教職課程を実施する組織に関するガイドライン』。

2. 東北工業大学における「教職課程のためのポートフォリオ」と「履修カルテ」

東北工業大学の教職課程は、この文部科学省による要請にしたがって、平成22年度から「履修カルテ」を運用している。学生は教職関連科目の履修状況と必要な資質能力に関する評価を記入し、教員は必要な資質能力に関する評価を記入しており、前者の学生が記入するものを「教職のためのポートフォリオ」と呼び、後者の教員が記入するものを「履修カルテ」と呼んでいる。以下、「教職のためのポートフォリオ」と「履修カルテ」について詳述する。

(1) 「教職のためのポートフォリオ」

「教職のためのポートフォリオ」は学内のLMS上で運用しており、教職課程を履修する学生にアクセス権限を付与している。教職実践演習を担当する教職課程部門の教員は、その全ての学生のページにアクセスする権限を持っている。

同ポートフォリオの項目は、文部科学省の例示に倣って作成しており、具体的には以下の4項目で構成されている。

- ・教職に関する科目一覧とその成績
- ・社会活動・ボランティア活動の記録
- ・教員に必要な資質についての自己評価シート
- ・学生コメント

教員に必要な資質についての自己評価シートは【表1】の通り、「1. 学校教育についての理解」、「2. 子どもについての理解」、「3. 他者との連携・協力」、「4. コミュニケーション」、「5. 教科・教職課程に関する基礎知識・技能」、「6. 教育実践」の6つの領域に関して、学生が自己評価を行うことになっている。各領域は、さらに3つの質問項目に分かれ、学生たちは、その項目について「1: あてはまらない」から「5: あてはまる」のいずれかを自己評価で選択している。【図1】は学生の入力画面のサンプルである。

【表1】 教員に必要な資質についての自己評価シート項目

1. 学校教育についての理解

教職の意義

教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解していますか。

教育の理念・教育史・思想の理解

教育の理念、教育に対する歴史・思想についての基礎理論・知識及びその現代的課題を理解していますか。

学校教育の社会的・制度的・経営的理解 学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識およびその現代的課題を理解していますか。
<u>2. 子どもについての理解</u> 心理・発達論的な子ども理解 子ども理解のために必要な心理・発達の基礎知識を習得していますか。 学習集団の形成 学習集団形成に必要な基礎理論・知識を習得していますか。 子どもの状況に応じた対応 いじめ、不登校、特別支援教育などについて、個々の子供の特性や状況に応じた対応の方法を理解していますか。
<u>3. 他者との連携・協力</u> 保護者・地域との連携協力 保護者や地域との連携・協力の重要性を理解していますか。 他者との連携・協力、役割遂行 集団において、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなすことができますか。集団において、他者と協力して課題に取り組むことができますか。 子どもの状況に応じた対応 いじめ、不登校、特別支援教育などについて、個々の子供の特性や状況に応じた対応の方法を理解していますか。
<u>4. コミュニケーション</u> 発達段階に対応したコミュニケーション 子どもたちの発達段階を考慮して、適切に接することができますか。 子どもに対する態度 気軽に子どもと顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、親しみを持った態度で接することができますか。 公平・受容的態度 子どもの声を新式受け止め、公平で受容的な態度で接することができますか。
<u>5. 教科・教職課程に関する基礎知識・技能</u> 専門教科に関する基礎知識・技能工業科・商業科 工業／商業／情報の分野の科目について理解していますか。 教育課程の構成に関する基礎理論・知識 学習指導要領や教科書などの教育課程に関する基礎理論・知識を習得していますか。（教育課程：教科・総合的な学習の時間・特別活動・道德教育） 学習指導法 情報教育機器の活用を含む学習指導法にかかる基礎理論・知識を習得していますか。
<u>6. 教育実践</u> 教材の分析・開発 教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を分析・開発し、指導案としてまとめることができますか。 授業展開力 子どもの反応を活かし、適切な板書や発問をしながら授業を展開することができますか。 学級経営力 学級経営に必要な、集団をまとめて導く力を身につけていますか。

必要な資質についての自己評価

※自己評価として 1:あてはまらない 2:どちらかといえばあてはまらない 3:どちらともいえない 4:どちらかといえばあてはまる 5:あてはまる の基準から選んでください。

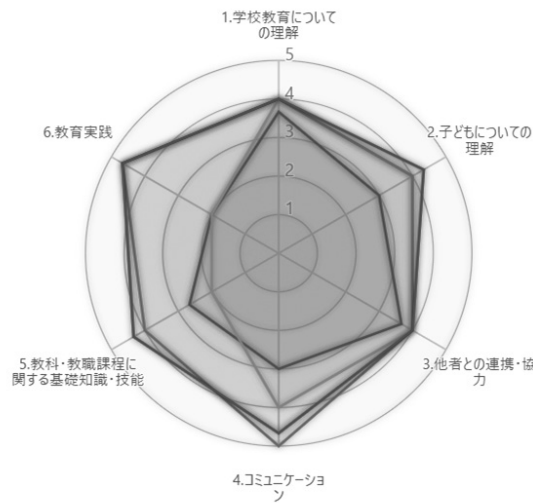
1.学校教育についての理解					
	1	2	3	4	5
教職の意義 教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解していますか。	1	2	3	4	5 ◆
教育の理念・教育史・思想の理解 教育の理念、教育に対する歴史・思想についての基礎理論・知識及びその現代的課題を理解していますか。	1	2	3 ◆	4	5
学校教育の社会的・制度的・経営的理解 学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識およびその現代的課題を理解していますか。	1	2	3	4 ◆	5

【図1】教員に必要な資質についての自己評価入力画面（例）

学生が自己評価を行うと、【図2】のようにレーダーチャートが自動的に作成される。1年次から4年次の結果が一つのレーダーチャート上に表示されるため、その推移が分かりやすくなっている。学生は、この結果の他、教職に関する科目の成績や社会活動・ボランティア活動の記録を踏まえて、各年次の総括を行い、コメントを記入している。

（2）ポートフォリオを用いた教職指導

教職のためのポートフォリオは1年次から開始し、それぞれの年次の後期に開講される教職科目の授業の一部を使って、ポートフォリオの入力を行わせている。担当教



【図2】レーダーチャート（学生が作成した一例）

員は学生が入力を行っている間に机間指導を行い、各学生がどのような自己評価を行っているのかを確認し、コメントしている。

このポートフォリオを記入する前に、15～30分程度の時間を使って教職課程に関する情報提供も行っている。学年によってその内容は多少異なるが、1年次と2年次の学生には、【表1】に示された教員に必要な資質がなぜ必要なのかという事や4年間の教職課程の履修のプロセスを周知することによって、その後の教職課程の見通しを立てさせることを意識している。また、3年次の学生には、教職への就職指導を中心に行っている。4年次の学生には、「教職実践演習」の第1回の授業でポートフォリオを記入させ、4年間のレーダーチャートとその評価と課題が何なのかを考えさせ、それを発表させている。その一例を今年度の活動実績に掲載しているので、そちらを参照されたい（本紀要 pp.14-17）。

（3）「履修カルテ」

東北工業大学における「履修カルテ」は、4年次の後期に教職課程の教科専門科目の評価を学科の教員が行うものを指す。多くの場合、担当するのは4年次学生のゼミ担当の教員である。各学科は免許種に応じて教職課程の目標を設定しているが、学生の科目の成績や学生との面談を通して、その目標を達成しているかどうかを確認し、その結果を記入している。

現在、「履修カルテ」は Forms という Microsoft Office のアンケート集約のための

アプリケーションを用いて行っている。そして、それによって集約された履修カルテの結果は、教職実践演習の担当教員に共有されている。学生が記入しているポートフォリオと同じ LMS を使用する方が情報が一括されて良いのだが、アカウントの権限の付与や管理が煩雑であるため、このような方法をとっている。

【図3】は教員に「履修カルテ」の入力を指示する Forms の画面である。そこに記載の通り、「学生との面談の結果、当該学生が学科の教員養成の理念や目標と照らし合わせた時に、教員に必要な資質を身に付けているかどうか、教科に関する科目の観点から評価を行う」ものである。記入例にもある通り、教員養成の目標に対する評価だけではなく、当該学生が優れている領域の他、その課題と対応策についても記載を求めている。

学生との面談を含め、これらの一連の活動を教職実践演習の一環として行う事で、教職関連科目に偏りがちな教員による評価のバランスをとることを目指している。

4. 教職のための履修カルテ 学科教員所見

...

【留意事項】
学生との面談の結果、当該学生が学科の教員養成の理念や目標と照らし合わせた時に、教員に必要な資質を身に付けているかどうか、教科に関する科目の観点から評価を行う。

各学科の教員養成の目標は以下のサイト（東北工業大学における教職課程に関する情報公開）を参照のこと。
（右上にそれぞれの学科の目標が書かれています。）

https://www.tohtech.ac.jp/dept/general_education/license/document/teacher_training_plan.pdf

【記入例】
〇〇学科は、……を教員養成の目標としている。これらに関して、当該学生は（工業科／情報科／商業科教員）に必要な教科に関する知識・技能・態度を十分に身に付けている。

特に、……の領域に関しては優れている。

ただし、……に関しては、……の課題があり、……の対応が必要である。

回答を入力してください

【図3】「履修カルテ」入力指示画面

3. 同取組の成果と課題

以上が東北工業大学における教職のためのポートフォリオと履修カルテの運用とそれを用いた教職指導の全容である。この活動の成果については、これまでに小川・中島（2023）によって検証が行われている。それによると、教職のためのポートフォリオの結果から、1年次から4年次にかけて、教員に必要な資質の6項目全てについて、ほとんどの学生の自己評価が上がっていることが明らかになっている⁴。また、令和5年度の「教職実践演習」の中で行ったインフォーマルなインタビューにおいて、「教職のためのポートフォリオ」が、自らの資質能力の獲得の振り返りに有効であったと4年次学生は回答している。

この運用に当初から関わってきた筆者の実感としては、特に1年次と2年次の学生の履修指導にポートフォリオは有効であると感じている。なぜならば、この時期の学生には、まだ教育実習という具体的な目標となるものがなく、教育の思想や理論、制度等の「実践的ではない」座学を中心とした科目の履修が続くからだ。ポートフォリオの記入とその際に行う履修指導は、そうした学生が教職課程を全体的かつ長期的な展望で見通し、現状を評価する契機となっていると思われる。ただし、注意しなければならないのは、ポートフォリオを記入させるだけでは、そのような効果は期待できないということだ。これを履修指導のツールとして活用するという視点が必要不可欠で、そうでなければ、その効果は限定的にならざるをえない。そして、この履修指導には、教職課程に関する情報提供やポートフォリオの記載内容に関するフィードバックだけではなく、そこから派生した個別の履修相談や進路相談も含まれ、担当する教員の負担は小さくはない事も付言しておく。

学科の担当教員が記入する「履修カルテ」の成果については正式な検証を行っていないため、今後、全学的な運用組織である教員養成審議委員会が主体となって行っていく事が期待される。

現状の運用における課題は、学生が記入する「教職ポートフォリオ」と学科教員が記入する「履修カルテ」が別に運用されていることによって、情報の共有が困難であることである。今後は、それを同一のシステム上で行う事によって、改善を図っていくことを検討していく必要があるだろう。

⁴ 小川和久・中島夏子、2023、「教職履修生による教員としての資質能力に関する自己評価」、東北工業大学総合教育センター（教職分野）『教職研究紀要』、第8号、pp.7-16.

執筆者紹介

中島 夏子	総合教育センター准教授
-------	-------------

総合教育センター（教職分野）2023 年度活動実績

1. 年間の活動

4 月	10 日 11 日 17 日 18 日	教育実習申し込みオリエンテーション（4 年次） 第 1 回 教員養成審議委員会【持ち回り形式】 教育実習オリエンテーション（3 年次） 宮城県 教員採用説明会
5 月	20 日	教育実習（4 年次） 公立高校 教員採用試験 一次対策 全国私立大学教職課程協会 第 42 回研究大会「令和新時代の教員養成－私立大学教職課程の責任と可能性」
6 月	23 日	第 2 回 教員養成審議委員会
7 月		
8 月		公立高校 教員採用試験 二次対策（面接、論作文）
9 月	22 日 23 日	公立高校 教員採用試験 二次対策（面接、論作文） 第 3 回 教員養成審議委員会【持ち回り形式】 高校教育として働く工大 OB・OG との交流会
10 月	19 日	仙台市立仙台工業高等学校「一日実習」（2 年次）
11 月	1 日	宮城県立聴覚支援学校「一日実習」（4 年次）
12 月	12 日 13 日 21 日	仙台城南高等学校「一日実習」（3 年次） 宮城県 教員採用試験説明会 第 3 回 教員養成審議委員会
1 月		
2 月	13 日 13 日	第 4 回教員養成審議委員会 教職 FSD 研修会 「教職のための学修ポートフォリオ」と「履修カルテ」の運用・活用方法
3 月		

2. 活動の様子



9月23日 3・4年次
本学卒業生の高校教員で組織されている「高原会」のご協力のもと、「高校教育として働く工大OB・OGとの交流会」を開催しました。



11月1日 4年次
宮城県立聴覚支援学校で「一日実習」を実施しました。



12月12日 3年次
仙台城南高校で「一日実習」を実施しました。

3. 教員免許取得者

工学部

電気電子工学科			情報通信工学科		
工業	情報	専修	工業	情報	専修
4	3	－	3	3	－

都市マネジメント学科		環境応用化学科		
工業	専修	工業	情報	専修
4	－	3	－	－

建築学部

建築学科	
工業	専修
1	－

ライフデザイン学部

産業デザイン学科	生活デザイン学科	経営コミュニケーション学科	デザイン工学専攻
工業	工業	商業	専修
2	2	3	－

合計				合計	人数
工業	情報	商業	専修		
19	6	3	－	28	23

4. 2023 年度 教員就職の状況（新規採用） * 総合教育センターが把握している者のみ掲載

2023 年度 卒業生	【学部】 ・電気電子工学科（岩手県 公立高校 教諭（工業）） ・情報通信工学科（福島県 公立高校 教諭（工業）） ・環境応用化学科（宮城県 公立高校 教諭（工業））
既卒生	・安全安心生活デザイン学科 2021 年度卒（宮城県 公立学校 実習助手（工業）） ・都市マネジメント学科 2022 年度卒（宮城県 公立学校 常勤講師（工業））

5. 教職のための学修ポートフォリオ

本学では、「1. 学校教育についての理解」、「2. 子どもについての理解」、「3. 他者との連携・協力」、「4. コミュニケーション」、「5. 教科・教職課程に関する基礎知識・技能」、「6. 教育実践」の6つの領域に関して、学生達が毎年、自己評価を行っています。各領域は、以下の表にある通り、さらに3つの項目に分かれていて、それぞれについて、「1:あてはまらない」から「5:あてはまる」の基準から選ぶと、レーダーチャートにその平均点が表示されます。

教員に必要な資質についての自己評価項目

1. 学校教育についての理解

教職の意義

教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解していますか。

教育の理念・教育史・思想の理解

教育の理念、教育に対する歴史・思想についての基礎理論・知識及びその現代的課題を理解していますか。

学校教育の社会的・制度的・経営的理解

学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識およびその現代的課題を理解していますか。

2. 子どもについての理解

心理・発達論的な子ども理解

子ども理解のために必要な心理・発達の基礎知識を習得していますか。

学習集団の形成

学習集団形成に必要な基礎理論・知識を習得していますか。

子どもの状況に応じた対応

いじめ、不登校、特別支援教育などについて、個々の子供の特性や状況に応じた対応の方法を理解していますか。

3. 他者との連携・協力

保護者・地域との連携協力

保護者や地域との連携・協力の重要性を理解していますか。

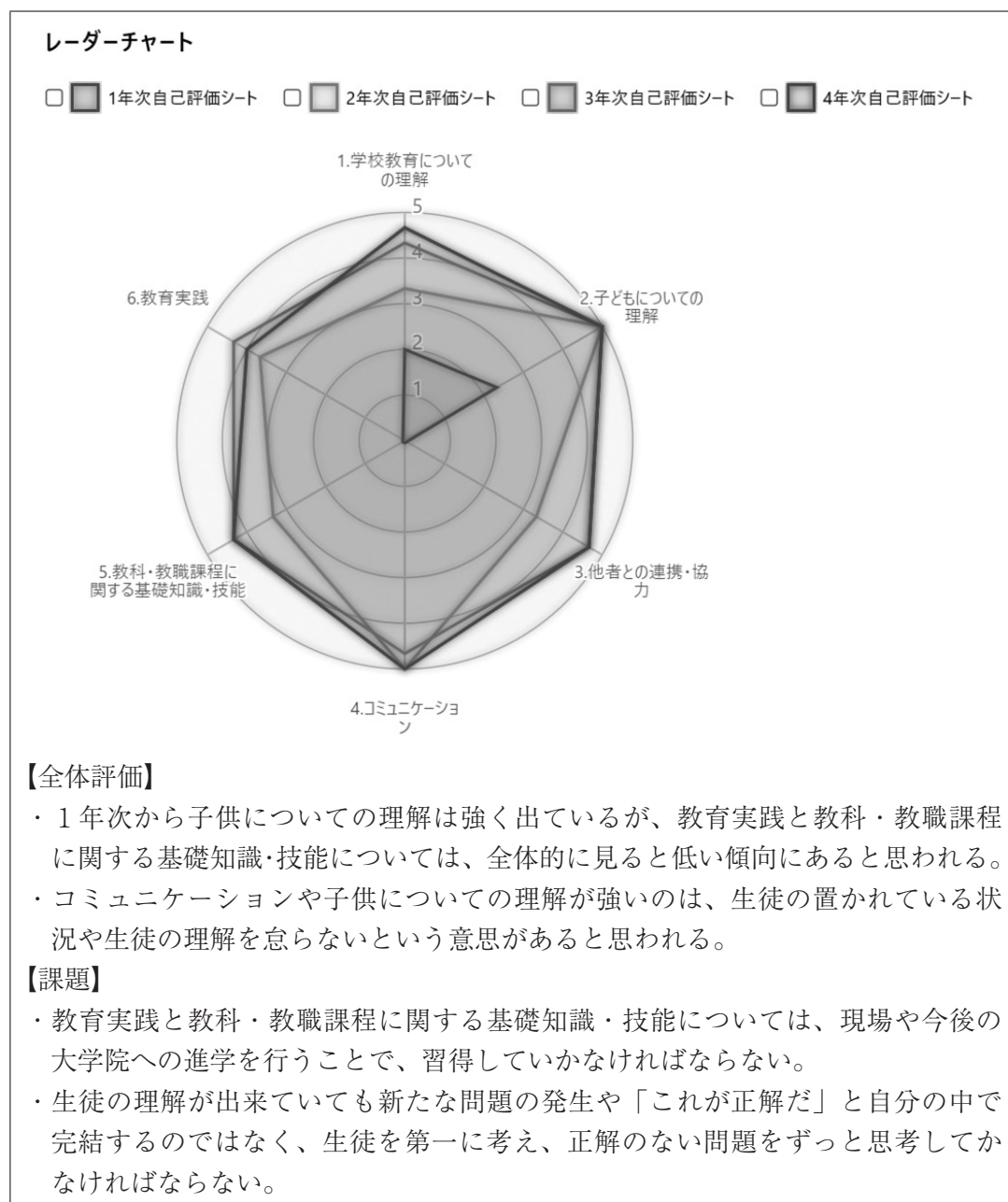
他者との連携・協力、役割遂行

集団において、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなすことができますか。集団において、他者と協力して課題に取り組むことができますか。

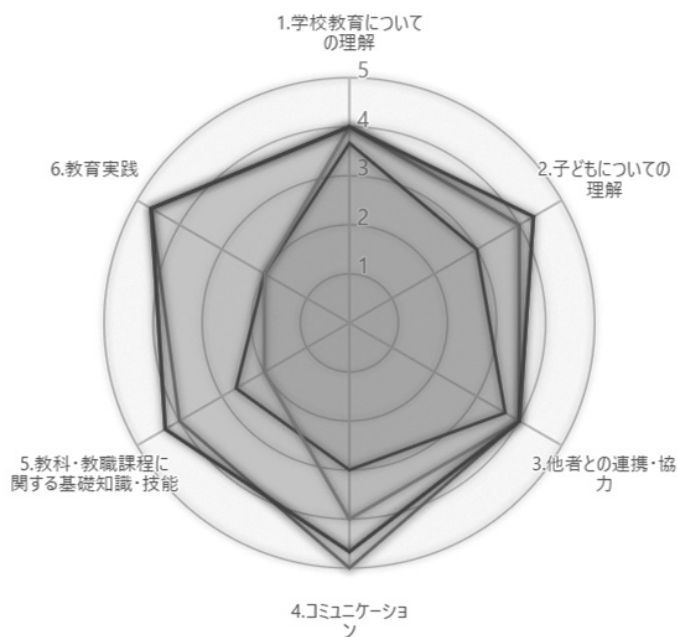
子どもの状況に応じた対応 いじめ、不登校、特別支援教育などについて、個々の子供の特性や状況に応じた対応の方法を理解していますか。
<u>4. コミュニケーション</u> 発達段階に対応したコミュニケーション 子どもたちの発達段階を考慮して、適切に接することができますか。 子どもに対する態度 気軽に子どもと顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、親しみを持った態度で接することができますか。 公平・受容的態度 子どもの声を新式受け止め、公平で受容的な態度で接することができますか。
<u>5. 教科・教職課程に関する基礎知識・技能</u> 専門教科に関する基礎知識・技能工業科・商業科 工業／商業／情報の分野の科目について理解していますか。 教育課程の構成に関する基礎理論・知識 学習指導要領や教科書などの教育課程に関する基礎理論・知識を習得していますか。(教育課程：教科・総合的な学習の時間・特別活動・道徳教育) 学習指導法 情報教育機器の活用を含む学習指導法にかかる基礎理論・知識を習得していますか。
<u>6. 教育実践</u> 教材の分析・開発 教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を分析・開発し、指導案としてまとめることができますか。 授業展開力 子どもの反応を活かし、適切な板書や発問をしながら授業を展開することができますか。 学級経営力 学級経営に必要な、集団をまとめて導く力を身につけていますか。

2023年度は、4年次後期の必修科目「教職実践演習」の中で、全ての学生が4年間のレーダーチャートを踏まえた教職課程全体の評価を報告しました。以下、その受講生が作成したポートフォリオのレーダーチャートとその評価を4つ紹介します。

【学生1（工学部）】



【学生 2（工学部）】



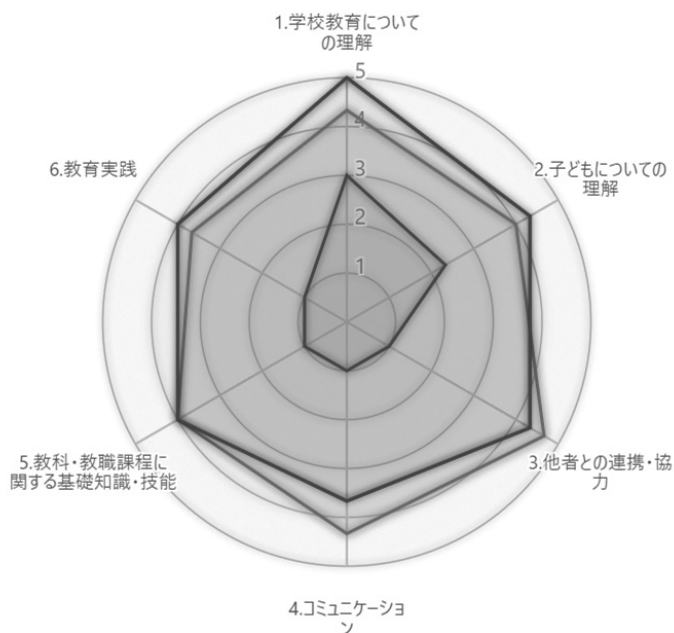
【全体評価】

- ・ 4年間教職科目を履修したことにより、「6. 教育実践」と「5. 教科・教職課程に関する基礎知識・技能」の能力を全体的に伸ばすことが出来た。

【課題】

- ・ 様々な科目で色々な知識を身に付けることが出来たが、その知識を実践できる機会が模擬授業や教育実習の場面くらいしかなかったように感じるので、身に付けた知識を自分から発信できる機会があるといいと思った。

【学生3（工学部）】



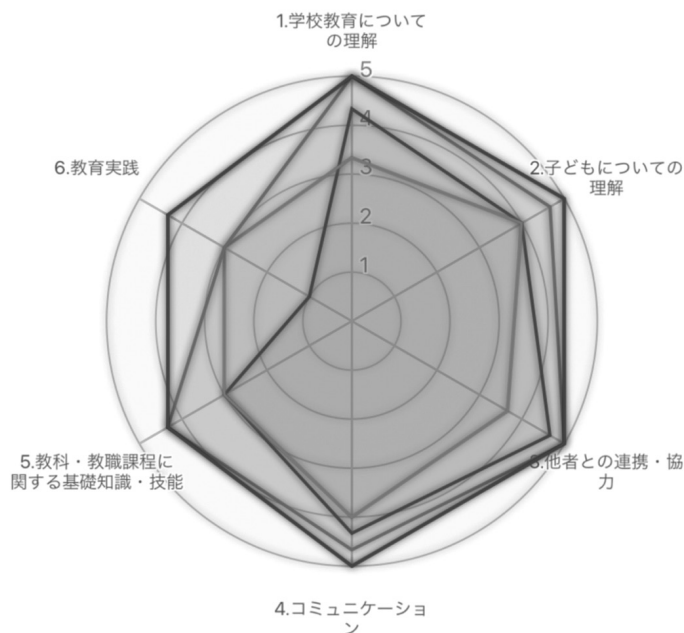
【全体評価】

- ・ 1年次から、全体的に能力を伸ばしていくことができた。特に「1. 学校教育についての理解」は年次を重ねるごとに、授業を通してより理解を深めていくことができた。他にも実習を通し、学校教育や教科の基礎知識等の重要性に関する理解を深めることができた。

【課題】

- ・ 全体的に能力が伸ばせたとはいえ、実際に実習を行ってみて、コミュニケーションや他者との連携等の周囲に目を向けることがあまりできなかったため、自身のことで手一杯にならないような準備もできるようにするといった課題点が考えられる。また、実習で自身が思っていたよりもできないことが多いと痛感したため、学んだことを復習し、足りない能力を整理してどう伸ばしていくか考えたい。

【学生 4（LD 学部）】



【全体評価】

- ・ 4年次の教職科目を通して、なにも知らない0からと考えると大幅に成長している。まだ完全な形ではないが、これらは私の自信へと繋がると思う。教育実習を通して知識を活用することができ、4年間で少しずつバランス良くなっていき、身につけていくことができた。

【課題】

- ・ 教員になる際には、学習方法が次々に変化していくと思うため、その時代に合うやり方に適応できるように、情報収集を行う必要性を感じる。
- ・ 教科・教職課程に関する基礎知識・技能については、ごく一部のことで、実習からまだ足りてない部分も多くあり、臨機応変に対応することはまだできないと思う。
- ・ 教育実践は、授業を行なって反省点も多く、学校の内情も一部しか見てないと思うと不十分だと考えた。

6. 「教職実践演習」(4年次) レポート 「教職課程・教職実践演習を通して学んだこと」

工学部 都市マネジメント学科4年 齋藤圭悟

私は教職課程を振り返って、教育の意義や教員に必要な資質、教えるための技能等について学ぶことができ、教員としての振る舞いにまだ多くの課題があると考えた。これらについて、学んだことについてと課題として考えた要因について述べていく。

はじめに学んだことについて述べる。学んだこととして、教育と教員の使命や意義等について挙げられる。これは、教職課程全体を通して学んだことであり、日本の教育の変遷や教員の社会での位置づけ、現在どういった教員が求められているのかといったことについても学ぶことができた。加えて、教員に求められる資質から、私自身学生としてどう学んでいくべきか、というような学び方にも意識を向けつつ、教育に関して学んでいくことができた。また、座学だけでなく実践的な面での学びも多くあり、模擬授業での動きを通して、授業の進行の仕方や資料の作り方と効果的な使い方、他の学生の授業から見習うべき点や自身の改善点がどこにあるかといったこと等も学ぶことができた。さらに教育実習では、授業見学や指導教員の先生からのアドバイスを受け、生徒を巻き込む授業展開や問の持ち方、重要な内容の強調と時間の取り方等、より実践的な面の学びを深化させることができ、私自身の教員として必要な資質を向上させていくことにつながれたと考える。

次に、教員の振る舞いを課題と考えるに至った要因の課題について、三つ述べる。まず、一つ目に準備不足が挙げられる。実習校でのタブレットを用いた授業形態や教科書等の教材の変化への対応、それに合わせた資料の作成や授業の構成等、準備が遅れて中途半端になってしまうことがあり、より前もって準備を行ってカバーしていくことが課題の一つであると考えた。次に、二つ目としてコミュニケーションが挙げられる。実習で行えたコミュニケーションは、クラスの雰囲気をおおまかに把握する程度の浅いものだったという反省点がある。そのため、対話を増やして生徒の理解や授業の進行に活かしていくためにも、気軽に自然に多くの生徒とコミュニケーションを取ることが課題の一つであると考えた。最後に、三つ目として周囲へ意識を向けることが挙げられる。実習中は自身のことに手一杯で、その意識の改善があまりできなかった。教員にとって、周囲に対して意識を向けることは当たり前であることに加え、周囲に目を向けてコミュニケーションや相互の協力につなげていくことも必要になる。そのため、自身のことで手一杯にならないように余裕を持ち、周囲に意識を向けるといったことが課題の一つであると考えた。これらの準備やコミュニケーション等にかかる要因からまとめて、教員としての振る舞いといったものが私の課題であると

考えた。

以上のように私は教職課程を振り返り、教育の意義や教員の資質、教えるための技能等について学び、教員としての振る舞いに関して課題があると考えた。

ライフデザイン学部 産業デザイン学科4年 馬場桜華

この4年間の教職課程では、「教員」とは何かを、教員に近い立場で体験し、学ぶことができたと考える。今まで教員は自分とは遠い存在であり、大変な職業というイメージしか抱いていなかったが、教員も一人の人間であり、「教える」ということがいかに重要で尊いことなのかを考える事が出来たと感じている。教員になろうとは思わず、ただ興味本位で履修をはじめたのがきっかけであったが、教える立場に自分になるのも面白いと感じ、人間としても大きく成長ができた価値のある4年間だったと自負している。

教員は教えることを主な仕事とするが、実はそれ以外にも仕事沢山あり、頭で考える事も実際にすることも多いということを大きく感じた。指導をするのも指導案を書き、学習指導要領を理解する必要もある。学校運営の事務作業、保護者対応、そして生徒の生活や人間として成長するためのサポートなど、多くの講義を通し、教員という2文字にはこんなに重みがあるということも実感させられた。より実感したのは教育実習や授業実践を行ってからである。3年の前期までは、情報や知識を増やすことができたが、いざ自分が教壇に立つようになってからは、いかに視野を広くできるかが重要になってくると感じた。それは、これまで座学として学んできた知識に加え、日々の変わりゆく社会の情勢や状況など臨機応変さが求められる現場だからだった。教職の知識が無意味というわけではなく、実践できた得られることのできない経験や情報があまりにも大きかったために、そう感じたのだ。しかし、その大変さの一方で、達成感や人間として成長できた部分も計り知れないほどに大きかった。教師のすばらしさや楽しさを実感し、大きく2つの点で人間として成長できたと感じている。まず1つ目として、人前で話すことに恐怖感や緊張を感じなくなった事が大きな成長点である。以前は、人前で話すことに苦手意識があったが、教職課程を通して、人前で話すことに楽しさを感じるようになった。また、教育実習で先生方に「堂々と話していて良かった」と講評され、自分の新たな強みを獲得できた。2つ目は、「失敗を恐れないこと」の大切さを実感した。人前で話すことに苦手意識があったのは、失敗を恐れていたことも原因の一つであった。しかしながら、先生という立場を経験していくうちに、失敗しても良い、むしろ失敗することで改善点を考え、成長できると感じるようになった。それにより、人前で話すことや他人との交流、授業課題などあらゆる場面での心の持ちようが変化したと実感している。

教職課程では、貴重な体験と多くの経験を積む事ができた。しかし、まだ自分には課題もたくさんある。それは、教職課程を履修したからこそ自己理解できたものだ。人前で堂々と話す事はできるようになっても、的確で分かりやすい説明ができるわけではない。話の着地点、「聞く側にどう思って欲しいのか」があやふやな部分があり、まだ教える立場として、話す技術が足りていないと感じている。そういった点は、今後の生活で改善できるように努めたい。この教職課程は、自分の新たな課題を発見することができ、非常に価値のある4年間であった。

建築学部 建築学科4年 大子田菜々生

自身の教職課程を振り返ってみて、初めに4年分の自己評価シートを用いて変化を確認した際に、自身が積み重ねてきた経験や能力の向上があったと実感することができた。各項目の推移から教職に関する能力の理解度はすべてにおいて向上しており、それは学年が上がるにつれて講義内容がより基礎を利用した応用的になったからであり、講義内において実践的に能力を身に付けることができる環境があったからである。

学年ごとに振り返ると、1、2年次の教育制度論、生徒指導論や教育課程論などの講義によって教職課程における学習の基礎を身に着けることができたと考える。学習している当初、講義はそれぞれ独立し、講義同士がどのような結びつきをしていくのかイメージしづらい点もあった。しかし、4年間学習を通したのちに振り返ると、それぞれ学習内容が関連性をもち、体系的な学びが行われていたと実感することができる。2020年頃はコロナ禍であり、オンラインでの講義が大半であったが、その影響は大きく感じられなかった。

教職課程においては生徒と関連する内容以外にも、教育の成り立ちや歴史、その過程で起こってきた問題などを理解することによって自身の教育観が生まれ、その考え方を固めていく必要があるのだと思う。このような基本的な教育に関する知識や心構えを培うことによって、結果として総合的な理解度の向上に結び付いたと思われる。

これらの教職課程において一番重要なカリキュラムであると思うのは、「教育実習事前・事後指導」である。この講義内で行われた模擬授業や指導案の書き方は教育実習に大きく影響があった。実習先に行って一番に信頼を置くことができるのは自分が今まで学んできた講義の知識であり、自分の経験であった。実習中の諸問題や課題はこれまでの学びや知識のおかげで乗り越えることができたと思うほど、この講義は実践において意義を持つものであった。

課題と考えることは、生徒との関わりについてである。大学の講義の中では生徒の実態を座学として学べても、直接的な関わり方については数回の実習や見学を通して体験することしかできない。教育実習前には仙台城南高等学校などにおいて1日実習

を行い、授業実践を行うものの、教育実習期間中においてH Rなどを行ったときとの感覚は当然ながら異なる点があり、ギャップを大きく感じた。また、教科に関して自分自身の理解不足を感じるがあった。教育実習にあたり「工業」でない教科で実習を行ったが、教科に関する基礎的な知識、求められる指導のありかたを身に付け、自信を持った授業を行うよう時間をかけることが必要だったと思う。

教職課程を履修して得たものは教員免許だけではない。それは人との関わり方、工業を学んでいる人間には手が出しづらい教育学や心理学に関する知識、またこのカリキュラムを通しての出会いなどである。

これらのことから、教職課程を受講して私は多くのものを得られたと思っている。4年間ありがとうございました。

教員養成審議委員会 2023 年度活動実績

1. 活動実績

第1回

1. 開催日：持ち回り形式（配信日：令和5年4月11日（火））
2. 議題：
（報告事項）
 1. 「2022 年度総括（自己点検・評価）・2023 年度目標および主要計画」

第2回

1. 開催日：令和5年6月23日（金）
2. 議題：
（報告事項）
 1. 令和5年度目標および主要計画
 2. 令和4年度教職自己点検・評価報告書（案）
 3. 2025 カリキュラムの教職課程についての依頼
 4. 令和5年度教員採用実績
 5. 令和5年度教育実習状況
 6. 1、2年生の教職課程履修状況
（周知事項）
 1. 令和6年度教育実習希望者と今後の指導計画について

第3回

1. 開催日：持ち回り形式（配信日：令和5年9月22日（金））
2. 議題
（審議事項）
 1. 令和6年度教育実習希望者について
（報告事項）
 1. 教職課程の変更届について

第4回

1. 開催日：令和6年2月13日（火）

2. 議題：

（審議事項）

1. 2024 年度の自己点検評価における重点項目について
2. 変更届（法改正に伴う 2 月 29 日提出の情報科目の提出）について
3. 教職関連 FSD 研修について
4. 「教職のための学修ポートフォリオ」と「履修カルテ」の運用について

（報告事項）

1. 2023 年度の自己点検評価報告書について
2. 教員採用の状況について
3. R 7 年度課程制移行に伴う教職課程に係る教育課程の変更届の提出について（学部・工学部 4 学科）変更届の認可について（文科省通知報告）

（周知事項）

1. 2024 年度学生便覧「教育職員課程の履修の流れ」についての確認依頼
2. 専修免許状教員養成目標の作成依頼について

東北工業大学 教職研究紀要刊行規程

令和2年4月1日

総合教育センター（教職分野）

- 1 東北工業大学総合教育センター（教職分野）は、『東北工業大学 教職研究紀要』（以下、『教職研究紀要』）を刊行する。
- 2 『教職研究紀要』の編集は、東北工業大学教職研究紀要編集委員会が行う。
- 3 『教職研究紀要』は、研究論文、研究ノート、実践記録、書評などから構成される。
- 4 『教職研究紀要』に掲載される内容は、次のとおりとする。
 - （1）原則として教職教育に関するものとする。
 - （2）研究論文等は、未発表のものに限る。
- 5 機関紙の発行時期は、原則として年度末とする。
- 6 この規程に関する事務は、総合教育センター事務室において行う。
- 7 この規程の改廃は、東北工業大学教職研究紀要編集委員会で決定する。

東北工業大学教職研究紀要

第9号

発行日 2024年3月31日

発行 東北工業大学総合教育センター（教職分野）
宮城県仙台市太白区八木山香澄町 35-1
Tel 022-305-3700

印刷 株式会社 郵辨社

THE TEACHER EDUCATION RESEARCH BULLETIN of TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY

Vol. 9
March 2024

Contents

Research Article

Implementing Portfolios in Teacher Training Program
: A Case of Tohoku Institute of Technology
..... NAKAJIMA Natsuko..... 1

Center for General Education (Teacher Education Division)
Activity Results for FY2023

Teacher Education Advisory Committee Activity Results for FY2023

Center for General Education (Teacher Education Division)
TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY

35-1, Yagiyama Kasumi-cho, Taihaku-ku, Sendai,
982-8577, Japan